

世の光

2012年1月21日 リバイブ・イスラエル・ミニストリーズ

イスラムの欧米観

ベティー・イントレーター

カンタ・アフメド博士は、その著書「*In the Land of Invisible Women/女性が透明である国*」(2008年 Sourcebooks社)でサウジアラビアにおける女性イスラム教徒としての霊的で文化的な経験を綴っています。そのなかで、ある身なりの良い夫婦がアルパチーノの映画「ディアボロス」のビデオを娘に見せるために借りているのを彼女は見ます。

アフメドは「私は本当に驚きました。その映画は、アルパチーノが悪魔に扮し、想像の世界を描いているもので、随所にグループセックスが描写されているのです。また、作中の暴力シーンも生々しく、今日のニューヨークの有様、スタイリッシュで絢爛豪華なように解釈した面を強調しているものです。」(405ページ)と記しています。

アフメドはさらに、家族に何故その映画を見せたのか尋ねたところ、「私たちは娘に欧米社会、特にアメリカがいかに悪に満ちているかを理解して欲しいから」と夫婦は答えています。「彼女を腐敗、墮落した世の中の真実にさらすことが必要だと思っています。娘に情報を与えたいのです。」

多くのイスラム教徒が、ハリウッド映画の中のセックスや墮落、暴力がアメリカ社会の真の姿で、全体としてキリスト教文化から生まれて来たものであると考えています。マスコミや娯楽産業によって全世界への発信されている「大淫婦」(黙示録17章)のイメージと、本来の聖書的なユダヤ・クリスチャン価値観とを分ける神の恵みを私たちに与えて下さいますように。

新しいイスラエル人信者達

どうぞ、イスラエル政府高官という背景を持つ「M」さん、イスラエル人高校の元聖書学教師「E」さん、そしてアメリカに住むイスラエル人「Y」さんのために祈りください。これら3人の方が新約聖書とアシェルの著書「誰がアブラハムと食事したのか」を読んでいる中で、啓示が与えられるように。そして、彼らの身の安全、謙虚さ、基本的な(主の)弟子としてのあり方、教会の交わりのため、および彼らの清さと力強くあり続けることによる証しのためにも祈りください。ネタネル・アウトリーチセンターでの活動を一新したラヘルのためにもどうぞ祈りください。

難民について、ダニー・アヤロンの見解

ダニー・アヤロンは外務副大臣を勤めるイスラエル国会議員で、イスラエル政府と海外のキリスト教団体との間を活発に取りもっています。こちらに彼が、イスラエル人の観点で見たパレスチナ難民問題の歴史について、映像を駆使して説明した5分間ビデオを紹介します。

http://www.youtube.com/watch?v=g_3A6_qSBBQ&feature=player_embedded#

エステル断食のお知らせ

「タアニット・エステル」の日を、カレンダーに印して憶えて下さい。ユダヤの伝統的な祭日を憶えて、3月7日水曜日午前6時から午後6時まで(日本時間:同日午後1時から翌8日午前1時まで)、私たちは12時間の断食祈禱集会を行います。皆様の教会やCongregation、祈り会、祈りの家も、この歴史的で戦略的な執り成しのイベントに私たちイスラエルの現地メシアニック信者一同とともにご参加ください。詳細は来週発表いたします。

世の光

アシェル・イントレーター

イエシュア(イエス)は素晴らしく、そのメッセージはとても純粋なのに、なぜある人たちはその福音を受入れないのでしょうか。反対に、神はなぜそのメッセージを信じないという理由だけで人を裁くのでしょうか。それは不公平な感じがします。イエシュアからの答えがここに 있습니다。

ヨハネ3章19節——光が世に来ているのに、人々は光よりもやみを愛した。その行ないが悪かったからである。

イエシュアは光です。光は神の愛、正義、恵み、清さです。主が人間に見える形で現われた事と、主のメッセージは一つのモラルテストとなっています。心の寛大な人は、それに近づいて来、心が純粋でない人は、それに反抗するのです。

福音はソロモンの知恵のようです(第1列王記3章)。2人の女が来て1人の子供について双方が自分の子であると主張した時、彼は子供を真二つに切るため刀を出しました。心の純粋な方はその子供を諦めると言い、心の純粋でない方は、子供を切ってしまうよう言いました。その子供の殺される可能性が、2人の女にとっての心のモラルテストだったのです。同じ事がイエシュアの横で十字架に架けられた2人の罪人にも言えます(ルカ23章)。ひとは柔らかい心の持ち主で、もう一人は頑な心を持っていました。

罪のない者の苦しみが、人の心を試す唯一の方法なのです。小学校で新しい子供が転校して来たとき、「いじめ」がその子を襲います。ある子供達は嘲笑しますが、ある子供達は憐れみの心を持ちます。苦しんでいる罪のない子に対する反応が、クラスの中の子供達の心を暴きます。イエシュア＝正しく罪のない方が、十字架で苦しむ事によって、心の中の思いを明らかにします。

ヨハネ3章の「光」は、ヨハネ8章の「光」と比べる事ができます。ここではある女が不品行の罪で捕えられます。宗教的な偽善者達は彼女を石打ちの刑にしようとします。彼らは、明らかに悪意を備えています。なぜなら、彼女との不品行の罪で男を捕えておらず(レビ記20章10節)、女の方は悔い改めている事が明らかです。イエシュアは、彼女を石打ちにしようとしている人らを叱りつけ、そして彼女の方に向けて言います。

ヨハネ8章11節——わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。今からは決して罪を犯してはなりません。

そして観衆に向かって言います。

ヨハネ8章12節——わたしは、世の光です。

この文脈では、世の光であるのはイエシュア本人だけなのではなく、彼の許しと正しさの特性も含まれているのです。恵みと清さの間の完全なバランスがイエシュアの光なのです。ひとを許そうとしない人は、許しの福音を受入れるのがとても難しいのです。また罪犯す事を止めようとしなひひとには、救いをもたらそうとしている人に「これ以上罪を犯さないように。」と言われる事に抵抗を感じるのです。教会の指導者が批判的過ぎたり、寛大過ぎたりすると、イエシュアのメッセージの真髄を掴み損ねてしまうでしょう。

韓国では多くの方が福音を受入れているのに、北朝鮮ではそうではない理由の一つは、北朝鮮には共産主義が台頭し、アメリカへの嫌悪感が席卷しています。アメリカで1960年代、多くの黒人が白人を憎み始めていた時代には、彼らはキリスト教からイスラム教へ改宗して行きました。私たちユダヤ人達は異邦人より霊的に優れていると思っていると、イエシュアのメッセージを受入れる事はできません。若者が両親を許せないと思っていると、神からの許しのメッセージを拒否してしまいます。それら性的不品行と反逆で洗脳された人々は、「もう罪を犯さないように」というメッセージが受入れられないのです。